大正元年十一月一日發行（毎月一日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第九卷第十號

目次

◎祈禱の週來らんとす……河井道子
◎聖書研究の必要……ヘンジ
◎心靈の音樂……松永文雄
◎クリスマスの準備……
▲贈物と餘興と……小崎千代子
▲美はしきクリスマスの企て……三谷民子
▲いづこ迄も眞意を失はぬやう……二宮貞子
◎フース大將傳の數節……白井胤祿
◎哥林多後書の研究……柏井園
◎愛のわざ……内田文子
◎會の消息……
△日本基督教女子青年會△東京基督教女子青年會　米系
女子青年會

日本基督教女子青年會發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子寄宿舍

基督敎女子青年會は

牛込區納戸町四十五番地

小石川區水道町二十八番地

の二ケ所に寄宿舍を設け女學生諸子の爲めに及ぶ限りのお世話を致して居ります。

右の寄宿舍は門倉ふじ子、大西絹子の兩氏が親しく監督して居ります。東京に家庭又は適當の保護者のない方々をして、家庭に於けると同樣に勉强の出來る樣にするのが青年會寄宿舍の希望であります。人數希望の御方は願書を監督者門倉ふじ子氏或は大西絹子氏に宛てゝお送り下さい。

尙同舍は一時の宿泊も許しますから、講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を計る事が出來ます。

寄宿舍委員長　今西　糸子

「女子青年界」

一、「女子青年界」は日本基督敎女子青年會中央委員が發行する雜誌也。

一、「女子青年界」は一年分郵稅共五拾錢、一部郵稅共金五錢です。

一、日本基督敎女子青年會は女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。

一、日本基督敎女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子
副委員長　岡見京子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督敎女子青年會同盟委員
萬國學生基督敎同盟會委員　河井道子
「女子青年界」編輯主任　小此木松子

東京在住委員
津田梅子　鈴木歌子　長谷川喜多子　ミ、エム、アイシャー　山田千代子
エ、ピー、ウエスト　小此木松子　二宮貞子　サラ、エリス　イ、カー、クレメント

地方在住委員
大阪　廣岡淺子　京都　佐伯小糸子　京都　松田道子　岡山　上代淑子
大阪　荒木幸子　京都　ミス、デントン　廣島　ミス、ゲインス

幹事
日本基督敎總幹事　河井道子
同　幹事　エ、シー、マクドナルド
同　幹事　アール、レーガン
東京基督敎總幹事　エム、エル、ヤシュウ
同　幹事　シー、アール、ウトイ
同　特志幹事　エムベジ
「女子青年界」編輯掛　小橋三四子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子青年界　第七巻第十號　（大正元年十一月一日）

祈禱の週來る

河合道子

萬國基督教女子青年會は毎年十一月中旬を期して祈禱週間となし女子青年會の設立さるゝ各地にては同一趣旨の下に公私祈禱會を催すを常とす。今年の格言は「神の國を臨らせ給へ」と云ふにあり。

抑も我れ等神の國の擴張を冀ふ者は、自己、自家自校、自國の爲め祈るは當然の事なれども、單に之れを以て足れりとなすべきに非らず、眞個の他愛心を以て萬國同胞の爲め祈るべきなり。視よ我が國の風習として年頭に祝賀の言葉に添へ、「謝平素疎遠」と記すは何故ぞや、これ即平日は多事多端にして、等閑に過ぐせども、年頭に於て必らず友人知人等を記憶して友誼を温むるの意に外ならず、然ればこの祈禱週間も平素は稍もすれば疎遠勝ちなる萬國女子青年會の姉妹を思ひ出て、又等閑に附したる友人等を偲び、これ等の人々の爲に樣々の願ひを神に祈るは、我れ等青年會員の光榮ある責任と謂ふべし且又我れ等の知らざる處思はざるの處に於て、如何斗り未知の友人等が我等の爲祈り、その祈禱が我れ等に祝福を齎しつゝあるかを忘るべからず。祈禱は空を撃つが如き甲斐なき事にあらず、必らず神前に命中して、恩惠の雨を旱魃枯衰の靈性に降すものなり。願はくはこの機會を以てよく自他のために祈り益々祈禱の生活の妙境に進まれんことを。

此處にまた萬國女子青年會本部は、萬國青年會の各會員より四錢づゝを此の祈禱週間中に獻金せんことを要求す。抑も萬國女子青年會本部は英國倫敦市に在りて、其一般費用、即ち家賃、事務費、郵税、出版物より、幹事書記の俸給、又萬國女子青年會總幹事スペンサー孃の俸給、支部視察旅行費一切は、この四錢の獻金より成りし金額を以て支辨するものなり。昨年此種の集金は一萬五千九百五十四圓六十二錢なりしと。然れども郵税のみにても優に五百九十七圓六十四錢の支出なりと云へば、本部その他の費用の莫大なるを知るを得べし。

我が女子青年會の負擔は金六十圓に當れり。會員諸姉願はくは之れを記憶して、右獻金を本部宛送附あらんことを乞ふ。本部にては之れを一つに取纏め、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

直ちに倫敦の萬國本部に送り、以て益々萬國女子青年會の發展を祈らんとす。

祈禱の目次は左の如し

十一月十日(日)は馬太傳十三章三十一、三十二節により、一般女子青年會の爲めに感謝し、各會員が愈々神と密接に親和せんことを祈り、十一日(月)は同章三十三節により亞弗利加の爲め働らき人の增加女子青年會の擴張、聖書研究の發達に就て祈り、十二日(火)は同章二十四節より三十節迄により、亞米利加大州の爲め祈る。先づ加奈陀にありては特に有爲の女子が益々多く女子青年會に献身せんことを祈り合衆國に於ては教育ある青年會々員が益々下層女子の爲め働らく事、東洋女子青年會の爲めに益々投資せんこと、及び明年開催の萬國學生基督教同盟會の効果あらんやう祈り、青年會が學校と社會との仲介となりて、益々社會の弊風と戰ひ、婦人の標準を高からしめんやう。次に南米の爲め、西班牙語の良書の出版幷にキリストを救主として聖靈の賜を受けんことを祈り、十三日(水)は同章四十四節より四十六節により亞細亞の爲め、第一印度に於て、幹事數名の必要及び一層事業の擴張と共に、婦人の道德的觀念の高調せんことを祈り、海峽殖民地に於ては働き人と事業の資の供與、シンガポールに上陸する婦人が誘惑より救はれん爲め祈り、支那の爲めには、指導者等の智識と信仰の增進し、官立學校に女子青年會の設立されんこと、日本の爲めには働らき人の增加と共に、其の事業の有効に發展せんこと、及び一般婦人の智識靈性に於て愈々高く、深くならんやう。次に亞細亞土耳古、シリヤの爲基督信徒の意義明瞭にならんやう、早婚の弊を改むる事等。十四日(木)は同章四節より二十三節迄につき、濠太利の爲め、女子青年が世俗的快樂より逃れて、祈禱の精神の益々充溢せんやう。十五日(金)馬太傳十五章一節より十六節迄により歐羅巴の爲め、第一フィンランド、諾威、瑞典、丁抹の爲め、宗教道德の復興の來らんやう、次に露西亞の爲め、女子青年が唯一の必要なる者を發見して、献身的に主に事へんやう。次に大英洲と愛蘭土の爲め、自己に非ず、神の力に依賴して、聖名の榮光を臨らすことを。獨逸、和蘭の爲めには熟練せる幹事擔當者と中央青年會館の與へられんことを祈り、十六日(土)馬太傳二十二章一節より十四節迄により、引續き歐羅巴の爲め祈る。佛蘭西伊太利の爲め、各地方に支部の設置せられんやう、土耳古巴爾幹半島の爲めには、戰時に於ての苦難却つて神の國の建設を早からしめんやう。ヂブラルカル、マルタ島の爲め聖書のマルタ語に譯されん事を祈る等。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

談叢

聖書研究の必要

日本基督敎女子青年會特志幹事　メリー、ページ

歐米諸學校の青年會では、毎年新に入學し來る生徒の爲に、聖書研究の栞ともいふ可き小冊子を刊行する例になつて居ます。是等印刷物の内容は一樣ではありませむが、最多く見るところのものは「學生は何故、日毎に聖書を研究しなければならないか」といふ樣な文字、即ち聖書研究の目的であります、其第一項には「聖書は、嘗て世界が產み出した最高の文學書であり、同時に、遠き太古を示すに依て、世界最大の歷史書である」といふ事が示してあり、續いて此本の第一の眼目、即ち「聖書は、吾人に處世の道を示す唯一の指導者である」といふ事が述べてあります。

要するに、吾々人間とある以上は、誰しも人生問題即ち「如何にすれば最價値ある生涯を送り得るか」といふ事に就て相當な考を用ゐない者は恐らく無からうかと思ひます。若し此問題を解決しやうと力めるのが人情であるとすると、聖書の如き人道の書、即ち過古千餘年の間に於て、實に無數の男女の師範となり、彼等をして高潔無垢の生涯を終らしめたといふ其驚く可き力を與へた本を見ずに過す事は出來難い次第であります。

吾々が此世に於て意味ある生活をするが爲に最必要な智識は、吾々の天父即ち神に就ての智識でありますが、聖書は、基督を透して神が如何なるものであるかを最良く吾々に示して居ります。太古より以來、此神の存在或は神の攝理に就て人間に示された人は歷史上少くはありませむが、唯救世主イエス基督のみは、其御生涯と其敎へ玉ふた事とに依て、最

完全に神を表現せられました。此故に、「神を知る」といふは吾々最上の要求であり此要求を充すが爲には、先づ、聖書に赴いて、其根本的智識を確立することが大切であります。

然し、如何程神に關する智識を持つても、神の如くならむとする決心と力とに缺くる所があれば、其効力は甚だ少いものとなります。然るに聖書の中には、古代の男女が、如何にもして神に近きたいと努め磨いた奮闘の跡が錄されてありますが、是等の人の實驗を讀みゆく中には、吾々自らと趣を同じうして居る所があり、如何なる點に於て自分は缺けて居るかといふ要所も解つて、大なる助けを得る事があります。殊に自分は基督に依て神の國に入り、自己の向上發展の爲に神の協力を仰ぐ事が出來るといふ事は、聖書を讀むと初めて悟り得るところです。

尙、基督敎の信者たる者にとつては、更に聖書研究を要する理由があります。即ち、吾々が一度持つた高い理想を落さぬが爲、絶えず聖書に接近して居なければなりませぬ。兎角すれば、人は低きを以て滿足し樣とする傾向のあるものです。夫れ故に常に何等かの力に依て此傾向を妨げなければなりませむが、先づ、祈禱、是れは非常な活力を吾々に與へるものですが、其他としては、屢々聖書を繰り返して基督がお弟子等に說かれた所の、高い生活の的を心に畫いて居る事が最有力であらうと思ひます。

此聖書研究の理由は、種々ありませう。或人の調べに依ると、古今東西の書物を通じて、夫れ〱主題に依て分類した結果、聖書に關しての著書が最多數を占めたといふ事ですが、是に依つても如何に此書が重大視せられて居るかゞ解ります。又多くの國國に於ては、相當に聖書の智識の無い人は、敎育を受けた者とは言はれて居ない事實に依ても、聖書が動かす可らざる永久的地位を占めて居る事が現はれて居ます。然し是等の理由も彼の人生の根本問題に比べては眞に些少たるものに過ぎませむ。即ち、吾等が生涯、聖書を以て熱心なる研究の目的としなければならぬ第一の理由は、是に依つて、神を知り、處世の道を悟らむが爲に他ならぬのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

心靈の音樂

（哥林多前書十三章）

松永文雄

音樂とは樂器と音聲の音樂のみにあらず、かの絕妙なる繪畫には配合の美を極めたる『色彩の音樂』あり。莊嚴なる建築には調和の妙を盡したる『大理石の音樂』あり。美麗なる花園には人をして精神恍惚たらしむる『花の香の音樂』あり。高尙なる談話、優美なる文章、純潔なる趣味には人の心を躍らしむる『智慧の音樂』あり。仁愛と正義と勇氣と謙遜と調和したる『德の音樂』あり。更に進んで信仰と希望と愛と調和する處に『心靈の音樂』あるなり。

此等の音樂が心の奧に響く瞬間には精神の爽快なること無限にして、心靈の歡喜抑えんとするも抑ゆること能はず、其の感興、其の妙趣語らんと欲するも餘りに幽遠にして雅致あり、記さんと欲するも餘りに美妙にして趣味深きに堪へざらしむるなり。事物の正當なる關係は音樂を意味し、正當ならざる關係は亂調を意味す。一の事實は他の事實と一致し、此の眞理は彼の眞理と調和して、始めて精確なる事實たり、又眞理たることを得べし。

○

複雜なる音樂あり、幾多の異りたる樂器を用ゆ、然かも奏樂の時には、音響の高低、調子の緩急、樂譜に應じて完全なる調和を保つなり。斯の如く科學、倫理、歷史、宗敎、美術等に調和あり、一致ありて、宇宙と呼ばるゝ廣大なる神殿の裡に崇高、雄大、美麗、莊嚴、靈妙なる眞理の大奏樂をなしつゝある、なり。然り而して此の雄大なる音樂に宇宙の心なる神の意識と調和するに非ずや。

宇宙萬有の大音樂堂に於て、或人は美術家となりて『色彩の音樂』を奏で、或人は建築家となりて『大理石の音樂』を奏で、或人は園藝家となりて『花

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の香の音樂』を奏で、或人は思想家となりて『智慧の音樂』を奏で、或人は道德家となりて『德の音樂』を奏で、或人は宗教家となりて『心靈の音樂』を奏でつゝあるなり。然り而して『心靈の音樂』の彈奏者たるべき基督者は、基督の人格の體得者となり、基督の生命の獲得者となり、基督の敎の宣傳者となり、基督の福音の證明者となりて『心靈の音樂』を最も高尚に最も純潔に、最も美妙に奏づべきなり。

○靜かに自然界の現象を察すれば、自然界には韻律的運動あるが如し、天體の運行、晝夜の循環、四季の變遷等は沈默なれども而かも秩序整然として行はれつゝあるなり。自然の世界は韻律的運動の充滿する一大音樂堂の如くなるに非ずや。かの谷川の音樂の如何に清新なるよ。松風の音樂の如何に幽遠なるよ。浪の音樂の如何に雄大なるよ。鳥の音樂の如何に快活なるよ。蟲の音樂の如何に悲哀なるよ。落葉の音樂の如何に寂寞たるよ。星の音樂の如何に美妙なるよ。彼等は實に韻律の運動の中に一種靈妙なる奏樂をなしつゝあるなり。

○斯の如く人生にも一種の韻律的運動行はれつゝあるが如し。人生には喜あり、悲あり、生あり、死あり、光明あり、暗黑あり、紅顏の少年あり、白髮の老翁あり、剛健なる男性あり。優美なる女性あり。就中、調和あり一致ある美しくして淸き音樂は愛の音樂なり。父子、夫婦、兄弟、朋友、師弟等の間に奏でらる る愛の音樂は、人情の極致にして人生の趣味を含蓄し盡すと云ふも不可なし。

○更に人生に於て人類相互の靈的調和をなす愛の音樂のみならず、神が人類に對し給ふ愛は人類をして神と調和せしめ、神の愛に對する人の感激と歸順とは神と人とを一致せしむ。茲に天地の調和、神人の交通を讃美する『心靈の音樂』あるに非ずや。此の意義に於て總の基督者は『心靈の音樂』の彈奏者なり。傳道の目的は神を人に紹介し、人を神に紹介し、神人の調和を計るにあり。基督者の榮ある天職は心靈の音樂者となり人生に於て美妙なる神人睦和の樂を奏し、現世を天國となす天の使となるにあり。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自然を支記しつゝある韻律的運動は個人及社會を支配す。生理上の健康に必要なる食物、運動、睡眠の如き、また心臟の皷動、呼吸、血液の循環と、一致と適應とを要す。此等の調和と一致とを破壞する者は健康を害す。是れ豈に生理的機關のみならんや。吾人の歩行、擧動、音聲、文章、詩歌の如き實に韻律的にあらずや。

雄辯は音聲と思想と熱誠と人格の調和を要す。文章は議論と精神の言辭と實行の調和を要す。人物は智識と愛情と意志の調和を要す。家庭の幸福は家族の調和を要す。社會の安寧は人民の調和を要す。是の形式の調和のみに非ず精神の調和を要す、利己的の一致に非ず献身的一致を要す。

此等の自然、個人、社會を支配する韻律の法則に從ふ者は生命あり勢力あり、是に逆ふ者は、破壞あり、滅亡あるのみ。或る法則に對する正當なる關係は音樂を意味す、正當ならざる關係は亂調を意味す。

自然界の美は合理的の秩序にあり。韻律的の運動にあり。人類の美は韻律的の法則と調和し、合理的の生活をなすにあり、即ち音樂的の生活にあり。換言すれば宇宙萬有の生命なる神と調和したる『心靈の音樂』を奏づるにあり。基督者の一言一行は神の心と調和して彼自らの思想、感情、擧動、人格を透うして神と人とが、睦み親しむに到る淸くして高き『心靈の音樂』となるべきなり。

○

更に進んで音樂の感化に就て考へ看よ。音樂は人心の調和者にあらずや。音樂は人心の慰安者にあらずや。音樂は人心の鼓吹者にあらずや。音樂は人心の復活者にあらずや。

我國の神代に於て天の岩戸の前に奏でられたる音樂は、天照太神の怒を和けたるが如き、支那の古代に於て五絃の琴を彈して聖明の治世を謳歌したるが如き、希臘の神話に歌の神ありて神々を慰めたるが如き、猶太の歷史に於て憂愁と悲哀に沈める國王ソーロを少年ダビデが立琴を以て慰めたるが如き、我國の歷史に於て夜半月明にして星稀なる處、年壯氣鋭なる武士の瀏亮たる笛の音が、かの靜にして寂しき足柄の山奥に響きたる時、獰猛奸惡なる心なき山賊も淸らにして澄み渡れる悲壯にして凄惋なる音調に皷膜を打たれて感泣したるが如き、又かの小鹿鳴く山里、嵯峨野の奧の片折戸、峰の嵐か松風か、尋

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬる人の琴の音か、明月に鞭を揚げつゝ仲國が耳を傾けし小督の局の音樂の如き日本文學の美點にして我國民に向て如何に優美高雅なる情趣を與へたるよ。況やマルセーユの傑作の吹奏せらるゝ處、佛蘭西人をして狂せしめ、米國星章旗の歌の吟せらるゝ處米國人をして熱せしめ、獨逸祖國の歌の唱せらるゝ處、獨逸人をして醉はしめ、我が國に於て薩摩琵琶歌の高く吟せらるゝ處、聞く者をして悲壯慷慨、感憤興起せしむるが如き音樂の感化實に偉大なりと云はざる可らず。

○

更に進んで宗教的音樂の感化は無限の勢力あるに非ずや。もし夫れ黄昏の雲に對して『夕日は隠れて路は遙けし』を吟じ、東雲の空に向て『聖なる聖なる聖なるかなを』誦し深夜の寂寞の裡に『空しき一夜の夢の世には』を歌ひ、聖靈の禮拜にて『移り往く世にも變らで立てる主の十字架』の如き『我が靈魂を愛する耶蘇よ』の如き『靜けき河の岸邊』の如き『我が主耶蘇よ』の如き『千歳の岩よ』の如き讃美歌を清き心と美しき聲とを以て謠ふ時に、我が靈魂は恍惚として夢幻の境に逍遙し、神の惠の如何に豐かに基督の愛の如何に深く十字架の力の如何に強く、人生の榮華の如何に空しく、來世の希望の如何に鮮かに、救の喜の如何に現實なるかを想ひ感涙潸々として禁ずる能はず地球上のあらゆる物は我が前より消へ失せ、全世界のあらゆる人は我が前より離れ去り我が靈魂は我が肉體より遁れ出て懐つかしき永遠無限の國に孤立し、慕はしき神の榮光の輝き渡れる天の國に逍遙し、茫々たる宇宙の間 基督と我とのみ存在するが如き歡喜の境に入らざんとするも得ざるなり。

嗚呼奥妙にして美麗なるかな。幽深なる音樂の意義よ。音樂は哲學も美術も詩歌も雄辯も文章も達し能はざる處に達し成功する能はざる處に成功す。音樂は人をして無限の美に醉はしめ、不朽の生命に溺れしめ、永遠の愛に憧がれしめ、神の寶坐と其右に在ます活ける基督の心に徹底せしむ、音樂には超自然の勢力あり、人心に奇跡を行ふ神秘なる生命を有す。總の基督者は心に基督の愛の音樂を彈じ、神の惠の音樂を奏で、彼自ら基督の歌となり神の音樂とならざる可らず。彼は基督の心に由て活き基督と偕に日を送り、基督の生命に由て美妙なる音樂の如く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人心の調和者となり、慰安者となり鼓吹者となり、復活者とならざる可らず。然り而して總の基督者は哲學も美術も文學も雄辯も文章も成功すること能はず、徹底すること能はざる人の靈魂を基督の愛と生命に觸れしめざる可らず。又彼は人の心の奥に神の子たる尊貴なる自覺を與へ、惡の子を善の子となす爲に淸く高き『心靈の音樂』を奏でざる可らず。而して基督者の日常生活に由て彼の傳道、彼の談話彼の愛心、彼の祈禱、彼の人格に由て同胞をして神の無限の力に觸れしめ神の不朽の生命を得しめ基督の永遠の愛に醉はしめ基督の完全なる人格に憧がれしめざる可らず。

天地萬有の内にある幾多の音樂中『心靈の音樂』の如く尊くして美しきもの何處にかある。『心靈の音樂』とは心靈の調和せる妙音を云ふなり。人の心が神の心と正當の關係を保てる時の心的狀態を意味するなり。『心靈の音樂』とは人が基督の心と同化したる時の韻律的運動を意味す。

○

人をして神より離れしむるものは何ぞや。我は神の子なりとの自覺の消失にあらずや。子をして親の愛を忘れしむるものは何ぞや。我は子なりとの自覺を忘れたる時にあらずや、子をして眞の子たる正當の位置を自覺せしめんとするは親の眞心なり。子をして子たらしむる爲に如何なる犧牲を拂ふも辭せざるは子を思ふ親の愛にあらずや。子の苦める時に己れ代りて苦まんと欲し、子死せんとする時に己れ代りて死んことを欲するは親の眞情なり。子は親を忘れ、親に逆ひ、親を苦むるも、親は子の爲に泣き、子の爲に苦み、子の爲に祈るに非ずや。

嗚呼慈み深き天の父、人類の親なる神、子なる人類が天の父を忘れ、天の父に逆ひ、天の父より迷ひて、天の父の子たる自覺を失へる時に、天の父は人類をして己が眞相を自覺せしめ、神の愛を知らしめ神の子となりて神と一致し調和せしむるために己よりも愛する基督を與へ給へり。嗚呼是れ如何に深き愛ぞや。神の獨子にして理想的の神の子たる基督は天の父の愛を人類に知らしめ、人をして神の子たる自覺に達せしむる爲に、喜んで己を人類に與へ給ひたり。而して彼の犧牲的愛に由て神と人とを調和せしめ給ひたり。斯くして基督は『心靈の音樂』の最も高く最も聖きものを奏で給ひたり。『心靈の音樂』

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は此の意義より考ふれば愛の聲なり、犧牲の響なり涙と血とを以て歌はるゝ音樂なり。神と人との平和の爲に歌ふ音樂なり。

『心靈の音樂』の妙處は神が其の生み給へる獨子を賜ふほどに、世の人を愛し給ふ『愛の音樂』にあり。基督は我儕の猶罪人たる時、我儕の爲に死し給ひたる『犧牲の音樂』にあり。神の愛と基督の死と人類の神子的自覺の覺醒とは『心靈の音樂』の生命なり妙趣なり。此の音樂の響く處、信仰と希望と愛の實現せらるゝ樂園あり。基督に於ける新なる理想あり新なる生活あり。總の基督者は基督の精神を以て愛の音樂者となり犧牲の音樂者となり各自の生活が美麗にして高貴なる『心靈の音樂』となりて神の榮光を讃美し、人類の救を讃美し、基督者の事業も家庭も傳道も皆な詩歌となり、音樂とならざる可らず。

嘗て音樂の妙を極めたるモザートの逸事を讀みたり。彼は或日數百年を經たる古き會堂の裡にありき日は將に西の空に沒し、暮色蒼然として四邊は靜けさと淋しさの氣に包まれつゝありき、彼はこの幽暗なる會堂の裡にあり、落日の最後の微光が靜に窓より差し入る處、得意のオルガンを奏でつゝありしが、彼は己が彈する音樂の哀音悲調に心を打たれ、自ら自らの音樂の美妙なるに深く感じ、彼の兩眼は覺へず涙に濕ひたるに非ずや。嗚呼音樂の妙趣、茲に到つて絶美と云ふべし。基督に由て新生命を得たる者は夕暮靜かなる時、ほの暗き會堂の裡にありて獨り基督の愛の深さを想ひめぐらす時、己が心の琴の音と基督の心の琴の音と一致し、己が愛の妙へなる響と基督の愛の妙へなる響と調和し基督者自ら基督の愛に憧がれて、覺へず兩眼に感涙を湛へ、自から絶妙なる心靈の音樂を奏で、世の人々をして基督の愛に感激し、新なる生活に入らしむべきなり。

保羅の詩的散文と呼ばれ、又無韻の詩なりと評せられたる哥林多前書十三章は『心靈の音樂』の最も美妙に奏でらるゝ樂譜なり。此の清く高く優しく美しき音樂の譜と、基督者の心の琴の音が、完全なる調和をなす時に美妙なる『心靈の音樂』を奏でらるべし。茲に基督者の生活の秘訣あり、靈的生命あり永遠の歡喜あり、基督者の行路は多趣にして多味なり。彼は基督の證人として『心靈の音樂』を彈ずべし最後の勝利の花の環は、主の十字架に含蓄する深き意義を歌ふ靈的樂師の頭に飾らるべし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

──（クリスマスの準備）──

（一）贈り物と餘興と

小崎千代子

私は日本の日曜學校のクリスマスがいつ迄も西洋の眞似斗りして居らないで、或點はどうか日本の事情に適した日本風になりたいと考へるのです、今迄の習慣として子供等はこの日に教會から貰ふ斗りでしたが、どうか金なり、品物なりを子供が與へるやうになりたいと思ふのです。尤も私共の教會（靈南坂）などでは、日曜毎の子供等の獻金を積んで一年には六十圓位になるので、例年これを傳道會社、救世軍、孤兒院、遺癈園等凡そ十位の慈善團體に子供等の手紙を添えて寄附して居り、その他花の集りには會堂を飾つた花や慰問袋を携へて慈善病院等を訪ふて慰めるやうにして居るので、與へるといふ事は常から教へて居る事故、クリスマスにはせめて子供等にも喜ばせてやりたいと、いろ〱贈物に就ては苦心致します。

或地方の教會での經驗ですが、クリスマスに成績のよい者にはメタルを贈り、他の子供等には皆同じ品物を與へて見たと申されましたが、これはよい方法でせうと思ひます。日頃の成績によつて贈る品物を異にしますと、妙なもので、日頃の事は忘れて、上等物を貰ふ子が何となく羨ましくなり、自分の貰つたものはつまらぬものだといふ不平も起り勝ちのものです。メタルならばそんな事もなく貰つた子もよい記念になりますし、また他の子供も少し宛でも同じ物を貰ふのは嬉しい事でせう。

然し品物はどんなものがよいかといふ事はむづかしい事で御座います。私共へ參る子供等は學校用品に差支へる樣な家々の子供ではないので、昔と違つて雜記帳位やつても別に喜ぶのではなし、同じくは

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その子の嗜好や年齢、家庭の事情等をも考へて適當なものを送つてやらうと思ひ、一方には金が限られて居るので、なかく〳〵の骨折りで、毎年私なども隨分苦勞致します。菓子は數年前から癈しましたが、癈したからとて誰一人小言を云ふ人もなく、集る人がその爲に少くなるといふのでもありませんから、品物を贈る事も一時は困難であつても追々は全く癈して、この日に何かこれに代ふる紀念の物を頒つ樣に出來るであらうと思ひます。花の日曜には私共では五錢の聖書一册宛與へる事にして居ります。聖書ならば自分がいらなければ、人に與へても傳道になりますから。かやうに何か一時的でない紀念物を與へたいと思ひます。

私共が子供の頃は皆西洋から人形とかカードとか一樣の贈り物が來たものですが、もの珍らしい昔の事でありますから、まるで神樣から戴く樣な心地で嬉しく、有難く思ひました。これ等のものは今に大事に保存してあり、出す度に子供達にその當時をくりかへして話し聞かせる事です。どうかこの日が最も神聖に紀念さるゝ樣に、贈り物を貰ふといふやしい念の添はぬ樣にクリスマスに關する歌の本とか簡易なお話の本とか頒つ事が出來たらよからうと思はれます。

それからこの日に假裝したりして派手な餘興をし無代價で芝居見にでも行く氣になつて人が集るのは面白くない現象と思はれます。餘興にしても成る可く神聖にこの日の意味を充分に表はす事が出來るやうに致したいものです。

（二）美しきクリスマスの企て

三谷民子

一年米國にクリスマスを迎へました時、メレレント州ボルテモーの町で、貴婦人方の團體の美はしい企てを見ました。それはこれ等團體の方々が、その町の新聞賣子を市の講堂に招いて、晩餐を饗するといふので、私も友人に伴はれて、そのお給仕の役を務めました。招いた數は千二百人であると申しますが、年頃は七八才から十四五才位のもののみでありました。前以てよい物ではないが新らしい靴下と靴ジャケットを配布して置いたので、常は素足の賣子等も、けふは一かどの紳士のやうに奇麗になつて參り、前以て切符でも渡して置いたものか、少しも混

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雜する事なく、二列になつて順序よく食堂に入つて來ました。

食堂は眞白のテーブル、クロースを覆ひ、所々に花を置き、天井からは花籠を吊して、ベンチ等ではなく一人一脚の椅子が備へられて居ります。此れ丈けでも慈善の招待であるぞといふ感はなく、彼れ等にいかにも紳士のテーブルに就くといふ滿足を與へるのでした。食前の祈禱を終へて後は直ちに食事を始めさせます。その御馳走も七面鳥の燒いたのを始め、常には口にした事もないもののみで、終りに子供等故茶やコーヒーはよくないといふので、コヽとミルクの暖めたのを與へるなど、凡て親切周到を極めたものでした。食事が濟んだ後、會頭さんは起つて「今日皆さんがかくも喜んでお集り下すつたのは誠に滿足であります。どうぞこの凡ての與へ主なるクリストを覺えて、その御降誕を祝し、共に感謝したいものであります」と、簡單ながら尊き教訓をも含んだ辭が終るや否や、室の一隅より音樂隊の嚠亮たる響きが起る、會衆は手を打つて喜び興ずる。次で貴婦人方の獨唱が交る〳〵あつて後、いついかにして用意したものやら、十二位の一人の子供は總代になつて謝辭を述べるといふ。小さいからといふので、とう〳〵テーブルクロースを取つてその臺の上に上せられたが、無邪氣の唇より洩る感謝の辭は誠に愛らしいともいぢらしいとも何とも云ひやうはなかつた。すると一同立ち上ると見ると「天に榮光、地には平和、人には惠みあれ」と聲美はしく歌つた時には、眞に貴婦人方の胸にはいよ〳〵この樣な催しを盛んにして、來年は是非二千人位も呼び度いといふ希望が起つたに違ひない。かくして五時から七時迄の二時間で、この樂しい團居は閉ぢられ、この子供等は各々平常と同じく新聞賣りに出掛けたのであります。

この樣な企てをするのは、貴婦人方がもはや夏頃から準備にかゝつて居つたのですが、いかにも美しい精神と共に、事が事務的に順序よく行くのに感心いたしました。どうぞ日本にもかやうな有益なクリスマスの守り方の行はれん事を希望いたします。

（三）いづこ迄も眞意を失はぬやう

二宮貞子

私は郷里の松山で、小さい教會內に靜かに送り迎へたクリスマスを見馴れた眼に、初めて米國に參つてクリスマスを迎へた時には、實は少々失望致さゞるを得ませんでした。それと申すのは、この日がもはやお祭り騷ぎになつて居り、贈り物がいかにも物質的、交換的で、その心づかひや金が嵩むので、あれでは定めし重荷に感ずるであらうと思れました。近年日本でも追々この日を迎へるのに、左樣な傾向になりはせぬかと案じられます。どうか第一にクリスマスの趣意を考へ、この日を惠むといふ意味に用ひ度いものであります。この意味から申すと、救世軍のクリスマス、バスケットなどは眞實によい企てと思ひます。誰れしもそのバスケットに入れる時には報いを得度いとも、また報いを得られるとも期待いたしません。そして集つた金品で、多くの賴りない細民を喜ばせる事が出來るのであります。

然しこの日をよく用ゆれば、眞に美はしいと思ひます。外國でも小さい子供が、お小遣ひを儉約したり、働いて少しのお金を貰つたりしたのを、一年中貯めて置き、日頃は惠まれる斗りである父母兄姉に心からの贈り物を捧げ、父母兄姉もその志を愛でて贈り物を喜んで受け、また幼き子供等にこの日憐れな人々を惠む事を敎へたりなどいたすのは、誠に美はしい習慣と思ひます。

私はクリスマス每に思ひ出す事があります。それはリットル、ウーマンといふ美はしい物語であります。美はしいといふ事丈けを記憶して、はつきりは覺えて居りませんが、何んでも昔はよい暮しをした貧しい家に、四人の女の子供があつた。いよいよ明日はクリスマスといふ前夜、この四人は昔であつたらかやう／＼であらうにと呟き、いつそ自分達はこのお金で他人に贈物をせずに、自分達に一番入用のものを買はうと相談を運んだが、それよりは皆一緒にしてお母さんに何かよい物を買つて上げて、クリスマスの朝びつくりさせやうといふ事になる。するといよ／＼その朝になる、お母さんは朝早く外に出て、近所の憐れな五人の家族を見舞ひ、歸つて來て子供等にその話をし、お前達は今食べやうとするその朝御飯をそつくりその家族に送つてはどうかといふ。皆初めはいやな顏をするが、遂にはそのよい事で母を喜ばせうとて、各々自分の一等好きなものを携へて行つて惠んでやり、自分共はパン丈けを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

食べて朝を過す。この家の隣りに頑固で名代の爺さんが住つて居つたが、この家族のした事を聞いて、やがて午後の食事に山程の御馳走を持たせてよこすので、子供等はいかにも報いの速かなのに驚くといふ筋でありますが、終始美しく、愛らしく書かれて居ります。これなどはいかにもよくクリスマスの意味を教へたものであると存じます。

廣告

來十一月十七日(日曜日)午後二時より神田美土代町青年會館に於て本會主催の女子學生大會開催致し左の講演これあり候間會員幷に本誌購讀者諸姉は勿論知友御誘ひ合せの上奮つて御出席下され度候

道場としての家庭と社會　田川大吉郎

大正元年十月

東京基督教女子青年會

贈物としての書籍

記者

クリスマスの贈物としてもつと書物が多く用ひらるゝやうになりたい。宗教に關する書籍は、我が國には未だ乏しいとは云つても、宗教書籍を多く出版する警醒社、教文館等の出版目錄によつて調らべて見ると、三四錢より十錢位でも面白さうな書物があり、また數人組合つて一書を贈りたいと云ふ場合には、なほ更ら適當なものがある。例へば基督教大辭典の如きは定價拾五圓であるが、もし多數の人々が出金して一つの團體になりと贈り物としやうと云ふ場合には、最も適當なもので、これによりて永久に多くの人々を益する事も出來やう。また書物は最もその人の年齡、趣向、必要に應じて撰び易い聖書研究の進みかけた人には註解書のやうなものとか、未信者の爲めには宗教小説とか、または信徒の傳記やうのもの等もよからう。その他救世軍、基督教青年會等にも、簡易にして、有益な書物が多く刊行せられて居る事と思ふ。之れ等は贈物を案ずる人々の參考の中に加へられたいものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ブウス大將傳の數節（下）

白井胤祿

前號に於てブウス大將が失意時代の知己のことに書き及んで、其の一人が靴屋の主人であつたことを云つたが、今一人は妙齡な佳人であつた。其れは後のブウス夫人、當時のマムホルド孃である。二人が始めて出逢つたのはブウスが改革派に投じた後六ケ月位のことである。一日彼は或る町の小會堂で說教をした。すると其所で母と共にマムホルド孃が出席して居た。數日後に靴屋の主人が途中でマムホルド孃に行きあひ、此間の說教を何う思ふかと尋ねると、孃は正直に答へ『是れまで彼の會堂で聞いたうちで第一等の說教であつたと思ひます』と云つた。靴屋の主人はかねてマムホルド孃の見識の高いのに推服して居たものであるから、此の言を聞いて痛く喜びして其の旨をブウスにも傳へたと云ふことである。それから二週間程經て靴屋の主人が改革派中の有力者を其の家に招いて食事を饗したことがある。ブウスもマムホルド母子も之に招かれた。其の序で主人はブウスルアメリカの禁酒の歌で『酒屋の惡夢』といふのを諳誦して聞かして呉れよと所望した。然し列席者のうちには禁酒でないものもあるので遠慮して居たが、主人の懇望止み難く起つて長い歌を淀みもなく諳誦した。すると列居る人々は少なからず感動し話は禁酒の問題に移つた。中には節酒でも可からうなど云ふ軟派もあつたのであるが、平生禁酒主義に熱心なるマムホルド孃は堪りかね、謙遜な態度ではあるが明白に禁酒を論じた。其れが緣になつてブウスとマムホルド孃とは互に敬慕の念を生じ、遂に相思の間柄となつた。

＊

マムホルド孃は信仰厚き父母の膝下に成長し、幼い頃から聖書を敎科書のやうにして讀んだものである。十二歲までに創世紀から始めて默示錄までを八回通讀したといふことである。少年禁酒會の書記となつて禁酒事業の爲めに盡したこともあり、動物虐待などに關して骨を折つたこともある。十六歲の時本當に耶蘇によつて罪から救はれたと云ふ自覺を得たらしい。是れまでも神を敬ひ之に事へて居たので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あるが、自分が確かに神の子である、救はれたものであると云ふ氣分になれなかつたのである。何うかして此う云ふ實驗を得たいものであると苦心煩悶したことは五六週間に及んだ。或る朝床から起き上る時、不圖枕頭の讃美歌を取り上げ、之を開いて見るとかねて熟知して居る歌で、

我が神よ我は汝の有なり　是れ如何に神聖なる慰籍ぞや
我が耶蘇を我が有なりと知るは　是れ何たる祝福ぞや

と云ふ一句に目がとまつた。是れまでも何遍となく歌つた歌であるが、此時は實に新しい意味を以て其の心に徹した。將來いつか罪から救はんことを俟ち望むのではなく、現在既に罪から救はれて居ることを實驗した。此の實驗が此の婦人の生涯の土臺となつたのである。ブウスと相知り遂に婚約をするやうになつたが、然しブウスの方でまた身の定りがつかない爲め三年間ほど結婚する運びにならなかつた。然し二人の交情は益す深く、マンホルド孃は陰となり、陽となつてブウスを助けた。時としては說敎の原稿まで作つてやつたこともある。ブウスの最も同情深き參謀となつたのである、彼女が救世軍の母として尊敬せられるのも所以なきにあらず、婚約時代の手紙の一節に曰く、

「貴方が最も純潔なる動機に由つて、事を爲さるゝ時、他人より輕蔑を受けらるゝは、如何にも堪へ難きことなるべく候。然し貴方を此く扱ふ者は、何人なるかと思ひ、餘り氣におかけなされまじく候。貴方は既に此の敎區内に、幾人かの心友を有せらるゝのみならず、又此等に遙か立ち優りたる一人の眞知己を天上に有せらるゝことに候。彼は其の力の大なる御方に候。而して彼は貴方が思ふ所に優りて、更に有用なる他の働き場を備へ得るものに候。」

＊

ブウスは愈よメソヂスト敎會の傳道者となつて、リヴアイヴアルの運動に加はり、其の有力者の一人となつた。園丁の棄てた石は隅の首石と聖書にある如く、到底物にならぬであらうと見くびられた彼も今は漸く其の潜んで居た力を認められて一方の有力者となつたのである。世の中は此うしたもので、辛抱して正直にやつて居れば必ず現はれるものである。

救世軍を起すまでのことを書いて來れば面白いことも少なくないが、今は其の隙がない。救世軍は其の前に基督敎傳道會と云ひ、更に其の前に東倫敦傳道會と云つた。彼はかねて貧民に同情し、其の傳道を心懸けて居たのである。東倫敦と云ふは最暗黑

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の倫敦と云はるゝ位に貧民も多く、隨つて善くないことの横行して居るところである。彼が此所の傳道に着手する話の纏つたのは、千八百六十五年、即ち慶應元年七月二日である。初めは數週間傳道する積りであつたが、實際傳道をして見ると世界に此所位な異教徒の多いところが何處にあらうか、彼等よりも救を要するものが何處にあらうかと云ふ考へが起つて、此の地に腰を据えて傳道することゝなつたのである。救世軍と云ふ名が出來たのは明治十年の末のことである。或る日ブウスは其の長男ブラムウエル、即ち今の救世軍大將と書記官レイルトンの兩人に助けられつゝ其年の年報を認めて居たが、段々口授して『基督教傳道會は即ち義勇軍なり』といふ一節に至り、暫らく思案した後『否々、我等は神の軍隊の現役なり、當然の義務を行ふものにて決して義勇兵と呼ばるべき性質の運動をなすものでない』と。乃ちレイルトンの肩越にペンを取つて『義勇』の文字を抹殺し、之に代ふるに『救世』の字を以てした。そこで基督教傳道會は即ち救世軍なりと云ふ句が出來たのである。此んな偶然の出來事から軍隊的組織を應用するやうになつたのである。之と烟突掃除人より起つて成功ある傳道者になつたエライジャ・カドマンがホイツトビイの漁民に傳道して居た頃、自分のことを艦長と云つた。其れを陸軍の大尉の義に用ひて、傳道者は大尉と云ひ、之を指揮するものを少佐又は大佐と云ひ、總指揮者を大將と云ふに至つたのである。ブウス大將が救世軍と題する文章に『救世軍！見れば奇異なる名稱である。抑も如何なる意味を表はす語であるか。是れは世界に救を及ぼさんことを目的とする人々の軍隊組織に由つて團結したる名稱である。若し國民を奴隷の境涯より救ひ、之に自由を與へ、又は敵國と戰ふに際し、軍隊を編成することが道理に合ふものとすれば、之と同樣に罪惡の奴隷となれる人民を解放し、之に自由を得せしめ、又神と人類の敵なる惡魔を討つに當り、有力強固なる軍隊を形造ることは最も道理に合ふた賢くして且つ望ましき計畫であると謂はねばならぬ。』との一節がある。是れが其の精神である。

※

救世軍は其の名に耻ぢざる勇しき戰をした。今日は世界の救世軍となつて居る。其の事業は五十八ケ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國の廣きに亘り、其の用ふる國語は三十四種に及んで居る。小隊及び支部の數は九千四十にして、士官及び候補生の數は一萬五千九百四十五人、此の外軍屬、下士、軍樂隊など九萬二千七百三十二人で、慈惠救濟の事業は千二十五の多きに上つて居る。斯の如き團隊が統一を保ち、秩序正しく活動して居るのは、組織の然らしむるところとは云へ、之を統率するブウス大將其の人の將に將たる才幹に由らなければ出來ないことである。彼は堅實なる組織に於て多數の勢力を神と人との爲めに集注し、最多數者をして最大善を爲さしめんとする方針であつた。又信仰と才能とを倶に活動せしむることに骨を折つた。才能がなくても熱烈な信仰さへあれば、聖德若くは殉教者となることは出來るが、指揮者となることは出來ぬと云ふのが彼の主張であつた。或時彼は社會から非常に疑はれたことがある。救世軍の財政を私すると云ふ噂さまで立てられた。然るに彼は其の創立以來の財政始末を極めて明細に記入した帳簿を提供したので、其の誤解は悉く一掃され、彼の私心なきことが社會に認識された。彼の成功の一原因は事務的であつたことに歸せねばならぬ。

※

彼の性行や生涯については學ぶべき多くのことがあるが、餘り長くなつたので之を除かねばならぬ。彼は非常に進取的の人であつた。常に何等かの新機軸を出し、思ひ切つて無經驗なことを斷行した。失敗もしたが、決して氣を挫かず、一難を經る毎に目的の一歩を進めた。彼は蒲柳の質で、傳道者たらんことを志願し醫者に診察してもらつたところが到底健康は之に堪へぬと宣言せられた位である。然るに八十四歳まで不斷の活動を續けた。勤勉活動は彼の健康を保たしめたのである。而して彼の事業を大成せしめたものも此の不斷の勤勞であつた。人の靈魂を愛する熱情は時に常識を逸するばかりであつた。弱者の友となり、失はれた者を救ふ爲めに其の一命を靖献した。然し其の奥には神を愛し、基督に事ふる熱誠が漲つて居たのである。近頃手にした英國の新聞を見ると遺産は僅かに四千九百圓ばかりであつたさうである。先年ヘンリイ・リイドと云ふ人がブウス大將の私用にとて五萬圓ばかりを贈つたことがあるが、是れは悉く救世軍に献じたさうである。彼は實に私心なき人道の勇士であつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

哥林多後書の研究（三）

柏井生

第二章の續き

基督の人格につきて特別に此の書翰に現れて居る思想と云つては多くない。此の書翰では基督が信仰生活の動力又根本であると云ふ方面を說くことが多いやうである。此等の點は次の章に讓ることゝするが、猶ほ一二爰に記すべきことがある。

第四章六節に『光に命じて暗より照り出でしめたる神我等をしてイエスキリストの面にある神の榮光を知るの光を顯はしめん爲に我等の心を照らし給へり』と云ふことがある。イエス、キリストの面には神の榮光が宿つて居ると云ふ譯である。又同章の第四節に『神の像なるキリストの榮の福音の光』と云ふ言葉もある。基督の面に現れたる榮光赫灼として保羅はこゝに神の榮光を見出したのである。基督の顏と云ふとはいろ／＼の思想を起さする。英國オクスフォルド大學のマンチスターカレッヂの前の校長ゼームス、ドラモンド博士の昨年書いた『保羅の生涯と敎訓』と云ふ小い書物のうちにこの處を說明した面白い一節がある。博士は沙翁の短歌のうちの

But heaven in thy creation did decree
That in thy face sweet Love should ever dwell.

と云ふ句や又ミルトンの短歌のうちなる

Love, sweetness, goodness, in her face did shine
So clear, as in no face with more delight

と云へる行など引きて人の顏と云ふものゝ表情に富めることを記し、次にマダム、シムーリコフと云ふ婦人がネープルスに於てガリバルヂーの凱旋を迎へた時人に送つた手紙を引いてある。其の手紙に云ふのに『私は今日ガリバルヂイの顏を見ましたが、彼の朋友がガリバルヂイに心服する譯が今は晝のやうに明になりました、彼れの顏を見さへすれば、此の人の爲ならば手に心臟を摑んで死ぬるまでに隨ひたいと思ふ人があることを感じ給ふのでありましやう。私もガリバルヂイの前へに立つまでこの事が解りま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せんでした』と書いてある。人々が目のあたり基督の顔を見たとき彼が『我を見しものは父を見しなり』と云はれた言の眞なることがわかるであらう。然し保羅は何時基督の顔を見たのであるか。彼がエルサレムに學んだ青年時代に耶蘇と云ふ人物を見たことがあるかどうか。此處は議論のある所であつて、五〇十六の『我等肉體によりてキリストを識りしかど』と云ふ一句は議論の一基礎になる有名な保羅研究家なるラムゼー博士や獨逸のヨハネス、バイスのやうな人は、保羅はこの世にありし耶蘇を見たとがあるであらうと考へ又さうであつたことに重きを置いて居る。私も多分さうであつたであらうと想ふが其れにしても彼れの顏に神の榮光の宿るを見たのはダマスコ途上復活した基督の榮に接した時のことであつたと思ふ。

それから今一つ注意したいことは基督と聖靈との關係である。保羅は『主は卽ち彼の靈なり主の靈ある所には自由あり』(三〇十七)と記し、又『これ主卽ち靈に由りてなり』(三〇十八)と書いてある。聖靈は基督を離れて存するのでない。當時或る信者は聖靈を受くると云ふは無暗に心熱して他の人の解らぬことを謂ふやうになるまでであると思ふた人もあるが、保羅は常に聖靈を基督の感化に接する方に結び着けて說いた。これは保羅の一大貢獻とも云ふべきものである。然らば三位一體の教理はどうなるかと云ふに、こゝに一々細に說くことは出來ぬが、聖靈の感化と基督の感化と密に相一致して居ることを許し得ぬやうな三位一體說は生命のない內容のない三位一體說と云はねばならぬ。私はこの二の信仰が些も相戾ると思はない。

第三章　宗教生活に關する教

前にも記した如くこの書は保羅が其の心の底を披瀝したものであるから、宗教生活に關する教は實に豐富である。一々之を擧げることは出來ぬが根本の處を學ぶに止めたい。

基督者の生活の根本は基督我が裡にあると云ふことである。『なんぢら信仰に居るや否自ら省み自ら試むべし汝等若し棄てらるゝものならずばイエス、キリスト汝等の内にあり之を自ら知らざらんや』(十三〇五)。保羅は基督を已の心のうちにもつて居ると云ふ經驗をさまぐ\なる言を以て說明して居る。然れ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ども何時も基督を宿すと云ふときには、十字架に死にて我等を救ふた基督を思ふて居るやうである。加拉太書二〇二十にも『我れキリストと偕に十字架に釘けられたり。もはや我れ生くるにあらずキリスト我に在りて生けるなり。今われ肉體に在りて生けるは我を愛して我が爲に己を捨てしもの卽ち神の子を信ずるに由りて生けるなり』と云つて居る。此の手紙の四〇十にも『我等何處へ往くにも常にイエスの死を身に負へり』と云ふ驚くべき言がある。

基督敎生活の刺戟力も亦此處から出て來る。彼は『キリストの愛われらを勉せり』(五〇十四)と云つたこゝに「はげまさるゝ」と譯してある原語は、馬太四〇二十四、路加四〇三十六などに病に「つかるる」と譯してあると同一語であつて、人が病にとりつかれた如く、基督の愛にとりつかれたのである。之から脫却することは六かしい。已むに已まれぬものとなつた。英譯聖書には Constrain と云ふ文字を用ひてある。人は何等か刺戟し餘儀なくするものがなくては活動し進歩せぬものである。或る人は生活難に壓迫せられて奮鬪する、或る人は功名心に驅られて動く、これも全く刺戟を受けぬ全く戰かはぬよりも優りて居るが、保羅の感じた刺戟は如何に高尙で且つ靈的であるか。ロボルトソンの『敎職の光榮』(Glory of ministry) と云ふ書物はこのコリント後書の前半を解說して良く保羅の大精神を表した書物であるが、この處を說いた文章を別けても面白く讀んだ。曰く『保羅は基督の愛に固く囚へられて、或る意味に於て彼には撰擇の餘地がない。これは義務心の最上命令よりも以上である、抵抗し難い愛の磁力に引きつけられたのである。母は病める小兒の奴隷である。苟くも母の心をもつて居る以上は已めたいと思ふても已めることが出來ぬ。然してこの高壓力は又大なる力を與へる。壓迫は抑壓とは違ふ。Constraint is not restraint 蒸汽を保つて居る汽罐は機關を驅り汽車を前進せしむるのである。基督の愛に固く我を壓し我を縛つて基督の爲に前進する外に取る途がない。保羅は實生活の秘密を基督に見出したのである』。ああ神よ我等も保羅の如く基督の愛に壓せられて進むものとならしめたまへ。

こゝから基督敎生活の欲望が出て來る。『この故に我等身に居りても身を離れても彼の心に適はんことを勉む』(五〇九)と、これは保羅の欲望を語つたも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のである。『彼』とは云ふまでもなく基督である。『勉む』と譯してある原語は英語の are ambitions と云ふ字に當る（改正英譯の欄外を見よ）。保羅の「アムビシオン」は基督の心に適ふことであつた。コロサイ書一〇十に『すべての事主を悦ばさんがためにその意にしたがいて日を送り』とあるも亦同じ精神である。基督に見らるゝ、基督に悦んでもらふと云ふことが、基督者の生活に生氣を注入する。

保羅は又この書翰に於て幾度か宗教生活の慰藉を語つて居る。『キリストの苦み我等に多くある如く我等の安慰もキリストに由りて多くあればなり』（一〇五）と云つて居る。神が諸の患難のうちに我等を慰むる所以は、我等をして神の我等を慰めたまふ安慰を以て又もろ〳〵の患難に居るものを慰めしめんが爲であると云つて居る。保羅は友の情によりて慰を得たこともある（七〇四―七）、又永遠の榮光を望んで慰められた。ことに人を同情に堪へざらしむるは、第十二章に記した、彼れが肉體にある刺の爲に悶え苦しんで後神から慰めを得た經驗である。

猶我等がこの手紙から敎へらるべきことは盡きざれども一先之を以て終りとなさん　（完結）

◉聖書に就て

私共は聖書に由つて神樣の聖旨を知ることが出來る。聖書は神に關する聖き人が聖靈に感じて書き著はしたる書物にて、其中には神樣のこと、來世のこと、人間の罪のこと、救のこと、聖潔の事、奉事のことを始めとし、親子、夫婦、主從、兄弟、隣人の間の義務責任のこと、物の言ひ樣、身の持方、飲食衣服の心得迄、細々説示してある。其故に毎朝新聞を讀むよりも大切なるは、先づ聖書を讀んで神樣の思召を伺ふことである。鏡に對ふて容を整へるよりも肝要なるは、聖書に照して我心の有樣を省みることである。古來大に神樣に用ゐられたる人々は、皆何れも聖書を愛讀したる者であつた。それ故にジョン、ウエスレーは晩年に及んでは專ら聖書のみを讀み、嘗て自分のことを「一書の人」と稱へた程であり、又世界第一の孤兒院を英國ブリストル市に起したるジョージ、ミューラルは三四十年間忙しい中にも必らず毎年四回宛、創世記から默示錄の終迄聖書を讀み通して居られたといふことである。………私共は毎日聖書を讀んで、神樣の聖旨を辨へるのみならず、之を身に引當て實行せねばならぬ。使徒ポーロの語に「聖書は皆神の默示にして、敎誨と督責又人をして道に歸せしめ、又義きを學ばしむるに益あり、これ神の人の完全を得て、諸々の善事を行ふに缺なからしめん爲めなり」といふてある。—山室軍平氏著實行的基督教

愛のわざ（一幕）

内田文子

人物
母
兄弟四人
姉　　　（十六七才）
弟　清　（十二三才）
次女　純子　（十才位）
次男　信雄　（六七才）

クリスマスの前晩
場所　或家庭の子供部屋

すみ子　打ちしほれて、
「わたしほんとにくやしくて仕方がないわ」
姉「純ちやん、あなたいつでも嬉しさうだのに、今日はどうしたの、何か悲しい事でもあつたの」
純「お姉樣これは今日にはじまつた事じやないのです、いつも出來るだけ我慢してたのですが、考へると悲しくなりますの」

仲善き兄弟その内の一人が悲しげなるを見て、互にそれを分たんものと皆心もとなげなり。
清「純ちやん一體どうしたの、どうかなるかもわからないからわけをいつて御覽」
純「それじやあ云ひますわ、あのね、學校で私の組に花子さんていふ方があるの、御存じでしよう」
信「僕よく知つてるよ」と幼なけれど、好きな姉の事とて、心を入れて聞いて居た弟はいつた。
純「あの花子さんてばね、私が日曜學校に行くもんですから、いつもヤソの内の子つて人にいひ、私をはねものになさるのよ。そして學校で私に何かいゝ事があるとか、先生に讃められる樣な事があると、なほひどく御あたりになり、わざと日曜の朝なんかに澤山のお友達を誘つてあそびにいらつしやるのよ。私それを思ふとくやしくてたまらなくなり、いつか

返報がへしをしたいと思つて居ますの」

姉「純ちやん、ほんとに御氣の毒ね、それでも神樣は人の善し惡しをよく御存じですから、きらはないでよく辛抱していらつしやいな」

四人が親しく物語れる所に母入り來り。

母「皆さん仲よささうにお話して居ますね、母樣はあなたがたに嬉しい〳〵事を聞かしてあげ樣と思つて來ました」

清「母樣嬉しい事つて何ですが、早く聞かして下さいな」

姉、信雄に向ひ「何でしようかね」

母「明日は皆の知つてる通り、あなた方の大好きなお友達のエス樣の御生れ遊ばした日でしよう。それで今英國に行つて居らつしやるお父樣が、あたた方一人〳〵にクリスマスのいゝ贈物を送つて下さいました。そして其他にも一つ誰にあげるかまだきまらないのが來て居ます。それはエス樣の御生涯をうつした大層奇麗な書本なのです。お父樣のお手紙には四人の内で何か一番いゝ事をした子供に其れをあげる樣にと書いてあります。それで母樣はよく考へた末こう定めました、明日を特別いゝ事をする日としますから、朝から晩迄に何かエス樣の御喜こびになる事をして御覽なさい。そして晩に内でクリスマスの御祝をする時に、皆のした事をきゝ、一番いゝ事をした人にお父樣からの特別の贈物をあげる事にしませう」

信雄、(小おどりして)「うれしいなあ、僕どんないゝ事をしようかしらん」と獨言。

他の三人も大賛成、異口同音に

「まあ嬉しい事何でもいゝ事をしましようね」

母「それでは時も來ましたから一所に神樣にお祈りをしてやすみませう」

四人の子供母の膝近く寄り、皆頭をさげる。

母の祈「天のお父う樣明日はクリスマスで私共はほんとに嬉しう御座います。私共のすきなお父樣からいゝ物が來て居ますそうで有がたく御禮を申上げます。どうか皆が一生懸命になりますから、明日はあなたの御喜びになる事をさして下さい、今晩みんなが寢て居る間よく御守り下さいませ。エス樣の御名によつて願ひ上げます、アーメン」

子供「お母樣御やすみ遊ばせ」

母「みなさんよく御やすみなさい」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（二）

クリスマスの夜――クリスマスの樹に燈火がさもり、贈物も積み上げられ、暖かなまさひ

母「さあ皆さんの待つて居たクリスマスの晩が來ました。それでは昨日御約束をした通り、先づ皆のした事を聞きませう。年の上下の順でなく、誰からでもはじめて下さい」

信雄一番に「母ちやん、僕ね、犬が大好きだけど、見ると直にいたづらがしたくなつて、しまひにはたゝいだり しつぽを引つぱつたりして居ました、けれども今日は何かいゝ事をしようと思つて居ましたから、たゝく代りに撫でゝ可愛がつてやり、お晝に母ちやんにいたゞいたお菓子も犬にわけてやりました、犬は今日はうれしそうに尾を振つて居ました」

母「信ちやん大層いゝ事をしましたね、小さい時からあんな動物迄大切にしてやらないと、大きくなつて親切な人になる事は出來ません。どうぞ今日だけでなく、いつも犬や猫や鳥等を可愛がつて御やりなさい」

他の方をむき「次は誰のお話しでしょう」

姉「母樣、私と仲のいゝお友達の千代子さんが御病氣で苦しんでいらつしやるといつかお話致しましたでせう」とおとなしく云ひはじむ「今日はクリスマスで、私共は喜こんで敎會に行つたりしますのに、千代子さんだけは寢床で淋しく御すごしになるのかと思ふと、お氣の毒でたまらなくなりましたから、私はお晝から水仙の花の生き〳〵したのを、白リボンで束ねて外の贈物と一しよにもつてお見舞に參り、淋しそうにしていらつしやいましたから、私が面白くしてあげました」

母「それは感心でした、悲しい人を慰めるといふやさしい心は女には特別大切です。又悲しい人に同情する斗りでなく、嬉しい人には一しよに喜こんであげる人になつて下さい」

淸「此度は僕がいひますよ、母樣、僕はね、今朝坂道をあるいてたら荷車を引いて居る人にあひました、坂ですから車がよく動かずウン〳〵いつて困つて居ました。そこでわたしは外のお友達をすゝめ一しよにその車のあとを押してやりました。すると車は輕く動き車を引く人は大喜こびをして居ました。それからもう少し行く内に盲目の人が杖をついて通りか

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かりました、ちようど其わきに溝があり、お友達は落ちなきやいゝがなどいつて居ましたが、僕は口でいつたり思つたりするだけでは足りないと母様に教はつて居ましたから、走つて行つて盲目さんの手を取つていゝ道の方に出してあげました。これが僕の今日したいゝ事です。」と元氣よく話す。

母「淸さんも中々いゝ子ですね」

純子の方をむき 母「まだ純ちやんが何もいひませんから、これから純ちやんのを聞きませう」

純「私は昨晩も一しよに話して居たのですが、あの私と同級の花子さんが私にほんとに意地がわるくて私が悲しがる樣な事斗りなさいます。それでね母樣今日もはじめはどうかして返報がへしは出來まいか等と考へて居ました。御存じの通り學校は今日から冬休になりますので朝半日ですみました。みんなは喜こんで敎場に殘してあるお習字道具や、其外いろ〳〵の物を澤山かゝへて歸る途中雨が降り出しました、私は朝曇つて居ましたから傘を持つて來て居ましたが花子さんはもつていらつしやいません。花子さんが御ぬれになつても何とも思はずにあとから歸りました。するとだん〳〵大降りになり、花子さんはお走りになると見る内に、石につまづいておころびになりました。今までは返報がへしの事斗り考へて居ましたが、其氣の毒な樣を見た時、ふと日頃母樣や日曜學校の先生にいつて聞かされて居た、自分と仲のいゝ方斗りでなく、自分をいぢめる人や自分がきらいな人に親切が出來る樣にならなくてはだめだといふ事を思ひ出しました。それで心を改め勇氣を出して花子さんの處に走つて行き「花子さんまあお氣の毒です事」といひながらばら〳〵に落ちた筆、鉛筆、ごむ、本や其外の物を一しよに拾ひ、又あまり多い樣でしたから私が少し持つて傘をきせかけてお内まで送つてあげました。

かうして歸る道で花子さんは私に向つて「純子さんどうも有がたう存じます。私はこれ迄いつもあなたに不親切斗り致しましてほんとに申譯が御座いません。それに只今は却つてあなたにこんなに親切にして頂いて、私はどういたしませう。どうか許して下さい。これからは決していぢの惡い事をせず、あなたと一しよに仲よく遊び、又これまでは笑つたり惡口いつたりして居ましたが、これからは私も御一しよに日曜學校に參ります」と仰つしやいました。母

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

様其時の私の嬉しさは何ともいへませんでした」と謙遜に話す。

母、しばしもだして後「皆さんのお話を面白く嬉しく聞きました。今から一番よかつたのをいひませうが、みんなは誰のがいゝと思ひますか」

清「母様、純ちやんのが一番いゝと思ひます」

母「私もそう思ひます。自分にいつも不親切できらつて居る人に反對に親切をしてあげるといふ事は、中々出來ない事です。しかもそれが一番貴い大切な事です。エス様も汝のあだをいつくしめ」と仰せられましたから、さぞ純ちやんの行を見て御喜こび遊ばしたでせう。それではお父様から來ました畫本はすみちやんにあげる事に致しませう」

母は嬉しげに畫本を純子に渡し、純子は叮嚀に受け取る。

母「皆さんもどうか純ちやんの様になつて下さい、若し自分の嫌いな人とか、あなたがたをにくむ様な人がありましたら、却つて其人に何か親切な事をしてあげて御覧なさい、きつといつの間にか仲よくなつてしまひます、然し外の三人が今日した事も皆負ず劣らずいゝ事でした。明日はこのお話を書いて遠方のお父様に御知らせをし、又御禮を申しませう。」

姉と清「すみちやん御目出度う。よく出來ましたね」

信雄「姉ちやんおめでたう」

（をわり）

會の消息

◎日本基督教女子青年會

◉十月十二日土曜日午後二時半より田町なる本部に於て中央委員會を開く出席委員井深會長、三谷書記井上會計、小此木まつ子、鈴木歌子。二宮貞子、ウエスト、津田梅子の八名及河井道子マクドナルド、レーガンの諸幹事事務員三田靜子等

尚當日は特別に同情者を招待して本會の主旨内容等を紹介せり。來會諸氏は小室みえ子夫人、松江操子夫人、松原夫人、松本孃、星野あい子氏、中島夫人周防蝶子氏、捜眞女學校山田千代子氏、横濱共立女學校ミス、ルミス、カナダ女子青年會々員ミス、ダルトン、ミス、キヤアツサル、東京青年會幹事並びに事務員。

執行順序左の如し

一、開會
一、前會の記録
一、會計報告
一、豫算提出

會長 井深花子
書記 三谷民子
會計 井上友子
同

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一、通信
一、紹介
い、常置員報告
ろ、雜誌
一、日本女子青年會財團法人
一、青年會支部報告
一、新に協議すべき事項
い　夏期修養會委員指名
ろ　修養會々場建築に付
は　大正二年四月學生會合に付
に　横濱市女子青年會建立の要求
ほ　外國婦人旅行者の宿泊所
へ　新委員選定
一、挨拶
一、通知
閉　會

委員　二宮貞子
主筆　小此木松子
編輯者　小橋三四子
本部事務員　三田靜子
東京青年會事務員　加藤たか子
青年會幹事　ミスター、フイシヤー
横濱共立女學校敎師　ミス、ルーミス
河井道子
井深花子

當日は事務多端にして、二時間半にわたり協議をこらせり。其主なるものを擧ぐれば左の如し。

一、現在本部に對する同情者多數なるを以て、これら同情者がある名義の下に一團となり、會を組織することに可決す。

一、日本キリスト敎女子青年會憲法改正委員として井深花子氏、三谷民子氏、河井道子氏擧げらる。

一、中央女子青年會財團法人組織に關し法學士平沼均治氏に委託することに可決す。

一、神戸女學院女子青年會の本部加入に付、同會の憲法中本部の主旨に些か齟齬する點あり、ために暫時加入を否決す。

一、大正二年夏期修養會委員として左の諸姉指名せらる。二宮貞子、小此木まつ子、河井道子、川島芳子、長谷川きた子、鈴木歌子、ウエスト、三谷たみ子、梅澤かね子、井深花子、星野あい子、山田千代子。

一、男子青年會幹事ミスター、フイシヤーは明年四月學生大會に付簡單なる豫告をせらる要點左の如し。

明年萬國學生同盟會總幹事マツト氏の光來に際し宗敎的學生大會を催さんとの豫定なり。よつて男子及女子兩青年會委員等に宗敎敎育社會個人等に關して多方面にわたり充分なる研究をとげ、以て大會の準備をなすべき旨を告げらる。即席に於て二宮氏これが準備委員としてあげらる。

一、橫濱のミス、ルーミスは該市に於て女子青年會支部設立の必要を提出せられ、其理由として確實なる實例をあげられたり。目下高等女學校卒業の程度なる青年女子にして、横濱商會商店等に奉職するもの百人以上あり、而して彼等のために靈的智育的社交的の進步をはかる機關は現今皆無なりよつて彼等は常に樣々の誘惡に包圍せられ、不知

の間に危險に陷るもの往々これあり、この際女子青年會は彼等の慰籍者敎導者となり、其進歩發展をはかるべきの機なりと信ずと日本語にて懇々理由を述べらる。委員一同はこの事に關し凡ての調査を遂げんことを河井道子マクドナルド兩氏に依托す。

一、マクドナルド幹事より外國婦人旅行者宿泊所の必要を提出せらる、大要左の如し。諸國に於ける女子青年會は大抵其附屬宿泊所を設けて、外國婦人旅行者のために使をはかるものなり、日本に於てはこの目的のために着手せんには早きに過ぎたるの感あれども、事實外國婦人旅行者にして青年會をたよりて宿泊をもとむるもの、日に月に其數を増しつゝあり。彼等は大概宗敎敎育等に趣味を有する者にして、華美なるホテルに宿泊し、普通の案内者を雇ひて本邦外形上の觀光をなすことをよろこばず、質朴に旅行し、以て本邦の思想界及び內部の眞相に接觸せんことを欲するものなり。かかる外來者に幾分なりとも、日本を眞面目に理解せしむるは決してあなどるべき事業にあらず、寧ろ重大なる問題と云ふべきなり。女子青年會は初めよりこの希望を有せるものなれども、この事業を監督すべき人材なく、資力なきため、默過しをりしが幸にも今般來朝せられしカナダ青年會々員ダルトン嬢は喜びて其任に當られ、又其費用の一端を負擔せんと申出でられたれば、委員一同は感謝して同氏の盡力を仰ぐことゝし、先づ其準備調査一般を、幹事河井道子マクドナルド兩氏に委任せり。

一、山田千代子氏（横濱）クレメント夫人（東京）ミスルミス（横濱）の三氏新たに中央委員として擧げらる。

最後に河井幹事の挨拶あり、相互に親しく談話して五時半閉會す。

▲第六回夏期修養會會計報告

收入

金八百九十五圓八十五錢	宿泊料及聽講料
金十五圓	日曜日の獻金
以下寄附	
金二十六圓八十五錢	一日繰り上げて閉會の爲め會員既納の食料寄附
金四十五圓	廣岡淺子氏
金十七圓七十六錢	本部より（支那人のために）
金八圓	河井道子氏
金八圓	ミス、マクドナルド
金八圓	ミス、ワツトネ
金七圓	ミセス、チヤンドラ
金七圓	葉氏
金五圓	長尾半平氏
金五圓	梅澤かね子氏
金五圓	門倉ふじ子氏
金五圓	三谷たみ子氏
金五圓	井深花子氏
金五圓	二宮貞子氏
金五圓	山田千代子氏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

金五圓　長谷川きた子氏
金五圓　小此木まつ子氏
金五圓　鈴木歌子氏
金三圓五十錢　今井革氏
金二圓　瓜生男爵夫人
金二圓　津田梅子氏
金一圓　ミス、ワイドナー（看護婦のために）
金一圓　ミス、ハアツホン
金一圓　渡邊氏（横須賀書肆の主人）
金八十一錢　某氏
金五十錢　ミスバラド、ミスボーフラー（女中のために）

合計　二千圓二十七錢

支出

金八百四十一圓五十五錢　宿泊料
金五十圓五十六錢　間會一日繰上げの爲歸國の會員に返納せし食料
金百〇八圓二十一錢　講師への禮金
金二十七圓七十八錢　委員事務員費用
金八圓　旅館への茶代
金十五圓十二錢　郵便電報料
金十五圓三十二錢　印刷代
金十五圓　横須賀敎會へ寄附金
金十二圓一錢　看護の報酬
金二圓五十六錢　書籍代（小學校及世話人に寄附せしもの）
金一圓五錢　求道者會合茶菓
金一圓二十錢　小舟借用代
金一圓九十一錢　雜費

合計　二千圓二十七錢

▲日本總幹事招聘の爲め引續き寄附せられたる分左の如し。

金二十圓五十錢也　函館女子青年會
金十五圓也　植村正久氏
金十圓也　森田松榮子氏
同　石川靜子氏
同　靈江操子氏
同　藤田鶴子氏
金五圓也　某氏
同　ミス、ページ
金三圓也　神戸女學院青年會
〆八十八圓五十錢也

總計　金七百六才八圓五十錢也

▲夏期修養會場建築の爲め

金六圓八十二錢也　共立女學校
金六圓三十五錢也　プール女學校

▲本部の働らきの爲め。但し會費をも含む

金二十五圓也　ミス、グリーン
金二十圓也　荒木幸子
金八圓也　香港某氏
金五圓五十四圓也　夏期修養會に於て書籍販賣の利益
金五圓也　ミセス、ホーキー
同　ミス、リンネツト
同　ミス、マクドナルド
金二圓也　ミセス、カウレー
同　ミス、ルーミス
同　ミス、ボーター
同　ミセス、ダンロップ
同　ミス、モルガン
同　福岡女子青年會
同　ミス、マシユウ
同　ミス、キラム
同　マリオン、オスゲード氏
同　メリー、ガーハード氏

◎東京基督女敎子青年會

▲十月十日牛込區田町なる本部に於て例會を開く。

出席者三宮男爵夫人、今西糸子、小畑續枝、三谷民子、ボーフラワー、河井道子、マシユウ、ペーヂ、ワトネ、加藤高子の諸氏。會計より寄宿舍に就ての報告あり、敷地借財金の中に、英國コンノート殿下より三百圓、住友氏百圓その他二三の方々を合せて四百九十五圓の寄附金ありたれども、なほ三百九十餘圓殘れる旨を報ず。

次に宗教委員より左の報告あり。今秋になりて聖書の組は三つ增して十七組となり、新らしき研究者二十名を加へたり。萬國祈禱日の末日には、例年の如く女子學生大會を神國青年會館に催す事に決定しその爲め特に委員を設けて準備にかゝる事。十月三日の工場傳道には青年會幹事三名、その他三名出席集りし工女三百人位。救世軍山室大佐、矢吹少佐の簡易なる話ありて後、二三の讃美歌を敎へし處、前二囘より注意深くなりて、一同聲高く歌ふに至りぬ。クリスマスには何かこの人々を喜ばする爲めの祝會を催さん事に定む。

委員六名の補缺として、新渡戸夫人、アウイン夫人小宮たま子、二宮貞子、棟居夫人、福井夫人(以上二人未だ承諾を與へられず) 指名せらる。

新計畫につき河井道子氏語りて曰く、女子青年會事業を東京市中に一層廣めんが爲め、市內各所に集る場所を設けたし。これに就ては既に二三の有志者は喜びて一週一度位その宅を借さるゝ事となれり。而してなほ一層會員の增加に務めたしと。

▲別項記載の如く十一月十七日には神田美土代町青年會館に於て女子學生大會開催、田川大吉郎氏の道場としての家庭と社會の講演ある筈。

◎米子女子青年會

「前略」當地の支部も幸にも神の深き御愛のもとに日々進み居候間御喜び下され度候。

扨九月二十七日此學期の始めての會として開き申候、其時には幸に永見愛子姉御立寄り下され、一同に約翰第一書三〇一を引きて、有益なる講話これあり候。實に我れ等神の子たる資格もなき者ながら、神の云ひつくす事能はざる愛の深きによりて、一人の御子を賜ふて、神の愛を敎へ給へりとの事に候ひき。次で會長ミス、ギレスピー氏の講話これあり、一同大に喜び申候。其主眼とする處は「イエスを深く思ふべし」との聖語にて、如何なる時にも主を深く思ひて、何事をもなすべしとの事に候ひき。後一同熱心に未だ神を知らぬ人々の爲めに祈り、會は閉ぢ申候。集會者二十三名。尙當地の會の上に主の御恵みの加はりて、神に救はるゝ者多く出づる樣御祈り下され度候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院長診察（月、水、木、金、午前
　　　　　入院診断後應需）
松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局 八八八（病院用）
　　　　 八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱
從停車場半里

電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

National Committee

Headquarters, 12Tamachi Sanchome Ushigome,Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
　Active Member World's Committee
　Chairman Women's Sub-committee
　World's Student Christian Federation
Miss Matsu Okonogi,
　Editor "Joshi Seinen Kai"

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. K. Araki, Osaka
Miss Uta Suzuki	Mrs, Koito Saiki, Kyoto
Miss Matsu Okonogi	Miss M.F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Tei Ninomiya	Miss N.B. Gaines, Hiroshima
Mrs. G. M. Fisher	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Sarah Ellis	
Miss Chiyo Yamada	
Mrs. E. W. Clement	

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National, Offioe
Miss Margaret L. Matthew, General, Tokyo
Miss G. R. Watney, Associate, Tokyo
Miss Mary Page, Special Worker
Miss Miyo Kohashi, Assistant Editor
　"Joshi Seinen Kai"

部數	定價（郵稅共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

廣告		
一頁	金六圓	
半頁	金三圓五拾錢	
半段	金貳圓	
一行	金貳拾錢	

大正元年十月廿八日印刷
大正元年十一月一日發行

發行兼編輯人 東京市牛込區田町三丁目十二番地 河井道子
印刷人 東京市赤坂區田町五丁目十一番地 齋藤豁
印刷所 東京市赤坂區田町五丁目十一番地 齋藤活版所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

クリスマスのおくりもの

近い方は御來觀を願ひます

營業

■英文日記類
■美麗名刺類
■フリンチ札
■ロガマキー
■クリスマス、カード
■新式キャレンダー類
■ルース、リーフ、ブック
■最新輸入ギフト、ブック

御撰擇は御婦人の特權です

品目

■チリメン本
■美術文房具
■テヾービヤ
■舶來萬年筆
■ワーターマン萬年筆
■ペーリー、ピクチャー
■ペーンテング、ブック
■舶來カーター、インク

遠い方は郵便なり電話で

■■ 賣場 東京京橋銀座 教文館 振替一一三五七 電話京橋二五二 ■■

逝く秋を趁うて

■ヂョルジュ、サンド原作■

■渡邊千冬氏譯■

（四六判美本）

（表裝凄艶）

魔ヶ沼

定價金七拾錢

郵稅金八錢

婦人とは如何なるもの、神聖なる戀愛とは如何なるもの、本書を讀めばハツキリ判ります。原著者はフランスの有名なる閨秀作家ヂョルジュ、サンドであります。

魔ヶ沼は名こそ凄けれ、極めて美しい清い戀愛を描いたものです。作者は多感多情の女性でありながら、田園生活を好みまして、死では農民たちの墓場の間に葬られました。

彼女は佛蘭西婦人です、佛蘭西婦人の天才者であります。その筆端の人情の機微に觸るゝところ、麗はしい自然を背景として、純潔なる戀を寫すところ、現代のいはゆる寫實小說とは自ら撰を異にします。

▲口繪（本書主人公の肖像）岡田三郎助氏筆

發兌　東京京橋銀座　警醒社書店　振替東京五六三番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正元年十一月一日納本發行（每月一回一日發行）

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN.

Volume IX. *November. 1912.* *No. 10*

Week of prayer — Miss Michi Kawai

The Necessity for Bible Study — Miss Mary Page

The Music of the Soul — Mr F. Matsunaga

Preparation for Christmas

a. Presents and Entertainments — Mrs. Kozaki

b. A Beautiful Christmas Celebration — Miss Tami Mitani

c. To Preserve the True Meaning of Christmas — Miss Tei Ninomiya

A Chapter from the Life of General Booth (no.2) — Mr. T. Shirai

A Study of II Corinthians — Mr. En Kashiwai

The Deed of Love (Dialogue) — Miss F. Uchida

Association Notes.

National

Tokyo

Yonago

The Official Organ of the National Committee of
Young Women's Christian Associations
of Japan

（東京赤坂[illegible]町　[illegible]所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA